

「臥龍山荘」の重要文化財（建造物）の指定について

1 区分 重要文化財（建造物）

2 名称 臥龍山荘 3棟

臥龍院（附・棟札 2枚）、不老庵、文庫

3 構造及び形式

- ・臥龍院 木造、建築面積 129.72 m²、茅葺、北面炊事場、浴室及び便所附属、棧瓦葺
- ・不老庵 木造、建築面積 30.18 m²、茅及び棧瓦葺
- ・文庫 土蔵造、建築面積 17.33 m²、二階建、南面廊下附属、棧瓦葺

4 所有者 大洲市

5 所在地 愛媛県大洲市大洲字勘兵衛屋敷 411 番地 2

6 概要及び評価

臥龍山荘は、肱川を望む景勝地に大洲市出身の貿易商河内寅次郎が建てた別荘で、地元の大工 中野寅雄により不老庵が明治 34 年、文庫が同 37 年、臥龍院が同 38 年に建てられた。臥龍院は、松皮菱の花頭窓など、桂離宮などの名建築に着想を得た細部意匠を持つ茅葺屋根の建物で、数寄屋技法の濃淡により室毎の趣向に変化をもたせている。不老庵は、肱川を見下ろす崖地に懸造で張り出す、独創的な造形を持つ茅葺の小庵である。

各建物は、吟味された材料と熟練した技術により、全体構成から細部に至るまで、極めて独創的で濃密な数寄屋の意匠にまとめ上げており、四国地方における近代の数寄屋建築の優品として高い価値を有している。



【臥龍院】



【不老庵】